

■以下の項目について正しいと思われるものに「○」印を、間違っていると思われるものに「×」印を付けてください。

2025 年 月 日 受講場所；

会社名； 氏 名 ；

1.	火災を発見した時は、直ちに付近の者及び緊急時の連絡先(総合防災監視室 内線23385／外線050-3362-3385)に通報する。 <u>必要時の消防署、警察署への連絡は総合防災より行うため、発見者としては不要である。</u> (※設問対象は太字・下線箇所)	1	
2.	種子島宇宙センター建屋内へ複数で入室する際は、代表者のIDカードをカードリーダーへかざせば、時間短縮の観点から共連れ入室を行っても良い。	2	
3.	各建物の室内、通路等には緊急避難時に妨害となるような設備／物品を置かない。	3	
4.	火気使用指定場所(喫煙所等)以外で火気を使用する場合は使用許可申請を行い、使用時は消火器又は水バケツ等を配置し、火気責任者を指名する。	4	
5.	IDカードリーダーまたは生体認証システムを使用する際は、共連れ等の不正を防止するため、一人ずつ確実に認証を行うと共に、認証後は作業員一人一人が確実に扉を閉める。	5	
6.	地震時の避難場所は、大崎第1事務所周辺駐車場、竹崎管理棟下駐車場、竹崎管理棟前駐車場、大崎通信棟前広場、大崎第1支援車庫前、第2衛星試験棟(STA2)前、第3衛星フェアリング試験棟(SFA3)前等である。	6	
7.	津波避難の3原則として「想定にとらわれるな」、「最善を尽くせ」、「率先避難者たれ」が提唱されている。	7	
8.	射点系及び衛星系エリアで作業する者は、所定の作業服、安全帽、安全靴その他の防護具を着用して行う。	8	
9.	すぐ後ろの車両に乗っている作業者の分のIDカードを預かっていたため、警戒所を通過する際にまとめて警備員に渡した。	9	
10.	高所作業では墜落制止用器具の着用、また開口部には転落防止用の安全ネット等を設置する。	10	
11.	保安物を室内で取扱う時は作業関係者以外の立入り防止の為、ドアは内部から施錠する。	11	
12.	作業規制区域内(立入規制区域、総員退避区域)での作業においては、事故時に被害を受けるリスクがあるため、作業中、残留者を必要最小限としたうえで射場安全G長の許可を受ける。	12	
13.	ヒドラジン(N <sub>2</sub> H <sub>4</sub> )の保管場所に入る時は、必ずヒドラジン濃度が0.01ppm以下であることを確認する。	13	
14.	爆発性危険雰囲気が発生する又は発生する恐れのある場所へのデジタルカメラを含む非防爆機器の持ち込みは原則禁止であるが、各所属長の許可がある場合はこの限りではない。	14	
15.	種子島宇宙センター内で作業のためにドローンを飛行させる場合は特に許可をうける必要はない。	15	
16.	雷警戒報発令時は保安物の取扱い及び運搬、屋外作業、高所作業、クレーン作業は安全に配慮すれば継続して作業を実施してもよい。	16	
17.	酸素濃度が低いことが予想される場合は「酸素濃度計など」で問題ない事を確認してから内部に入る。	17	
18.	指定された作業規制区域内において危険作業でなければ当該作業以外の作業を並行して実施可能である。	18	
19.	自動車運転時において、数キロ程度の制限速度超過は許容範囲である。	19	
20.	地震災害時の避難の方法としては、原則として車両等は使用せず徒歩とする。車両等を使用していた場合は鍵を抜き取り路肩に止めて避難する。	20	